

2019年度 学校教育指導資料

チーム学校で目指す教育活動の充実



函館市教育委員会



2019年度 学校教育指導資料

「チーム学校で目指す教育活動の充実」

本資料は、函館の子どもたちに未来社会を切り拓く資質・能力を育むため、本市の実態や教育課題を受け、各学校（園）の教育活動を充実させるための要点を示すものです。

今年度は、創意工夫を生かした教育活動を推進するための3つの視点を示しました。

<本市における課題>

複雑化・多様化した課題を解決し、子どもに未来社会を切り拓く資質・能力を身に付けるために、学校が組織として、協力・連携した取組を推進することが必要である。

- ・未来社会を切り拓く資質・能力を育成できる授業への転換
- ・授業に対する様々な困難さを克服する支援の充実
- ・日常の授業を通じた、自己指導能力の育成
- ・主体的に学習に取り組む習慣・規則正しい生活習慣の定着
- ・不安や悩みをもつ子どもや特別な配慮を要する子どもへの支援の充実
- ・不審者、交通事故、災害等の危険から確実に子どもを守る取組の充実
- ・目指す子どもの姿の社会との共有と教育課程における明確化
- ・カリキュラムマネジメントを通じた教育活動の充実・改善
- ・9年間を通じた、子どもに資質・能力を身に付けさせる取組の充実

2019年度 学校教育指導資料

チーム学校で目指す教育活動の充実

I 授業を核とした指導の充実

学校ぐるみで、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に努め、「資質・能力の育成」と、「生徒指導」「特別支援教育」の充実を目指す。

II 授業を支える取組の充実

教職員がそれぞれの力を発揮することができるよう、学校ぐるみで教育活動に取り組む体制の整備や学校外の人材の活用などの取組を充実させる。

III 地域とともにある学校づくり

家庭・地域・学校が目標や課題を共有し、一体となって子どもを育み、地域とともにある学校づくりを進める。

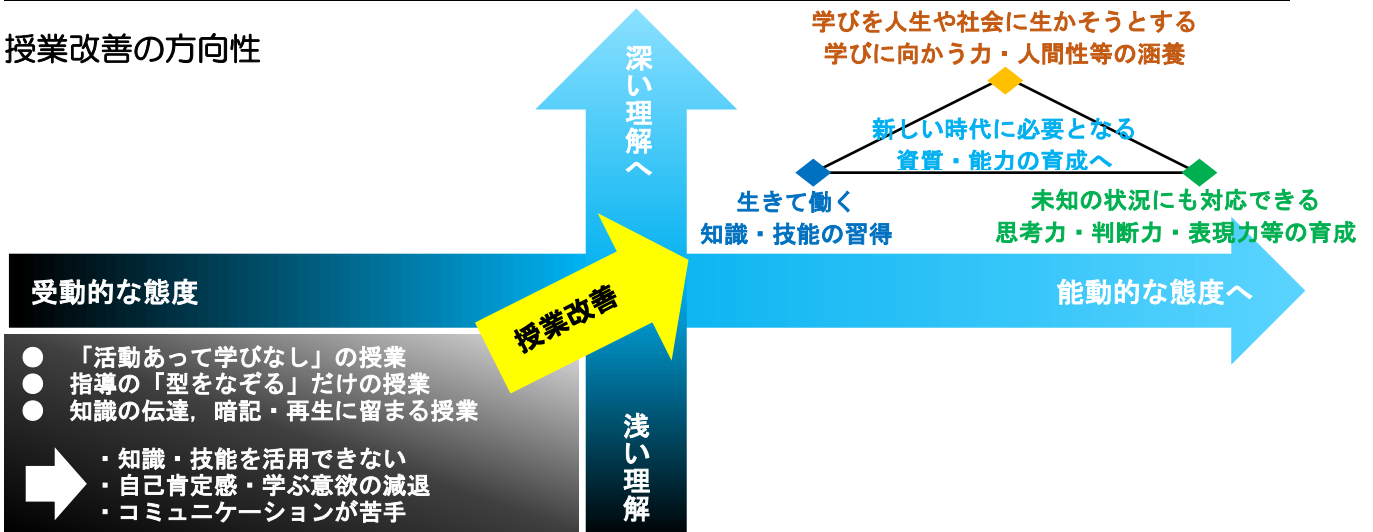
1 授業を核とした指導の充実

子どもたち一人ひとりに、未来を切り拓く資質・能力を育むためには、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を行うことが重要です。子どもたちの「頭と心がアクティブになる授業」は、生徒指導や特別支援教育の充実にもつながると考えます。

全ての教師が積極的に授業改善を進め、学校が一体となって教育活動を充実させることが、子どもたちの学校生活の充実につながっていきます。

1 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善

授業改善の方向性



(1) 「探究型の授業」の質を高める5つの過程

生きて働く知識・技能の習得など、新しい時代に求められる資質・能力の育成を目指して、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を進めましょう。

め
あて

1 見通し

子どもが主体的に本時の課題に取り組むとともに、学ぶことに興味や関心を高め、見通しをもって粘り強く取り組めるよう工夫しましょう。

よ
そう

2 個人思考

子どもが既にもっている知識・技能を活用しながら、本時の課題を解決する方法について、一人ひとりが自己決定できるような場を設定しましょう。

た
しかめ

3 対話

共感的な人間関係を基盤として、子ども同士や教職員・地域の人との協働を通じ、自己の考えを広げ深める対話の場を工夫しましょう。

ま
とめ

4 再構築

知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したりするなど、思いや考えを基に創造できるような活動を設定しましょう。

5 振り返り

自らの学びを振り返り、その成果を実感したり、成長を自覚したりすることができるような活動を設定しましょう。

I 授業を核とした指導の充実

資質・

「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善

「主体的・対話的で深い学び」の視点から「何を学ぶか」だけでなく、「どのように学ぶか」を重視して授業改善を進めましょう。

- 「主体的な学び」を実現するために、実社会や実生活と関連した題材の導入や体験活動の充実など学びに向かう力を刺激する工夫を行いましょ
- 「対話的な学び」を実現するために、対話する必然性のある課題の設定や情報の可視化・操作化など思考を深めるツール等を運用した対話など、対話を通し考えを構築できるような工夫を行いましょ
- 「深い学び」を実現するために、資質・能力が活用・発揮される場面を設定し、一人ひとりが学びのよさを自覚できるような工夫を行いましょ

授

特別支援教育の充実

焦点化

ねらいや活動をできるだけシンプルにしましょう。

共有化

ペアやグループでの活動を効果的に取り入れましょう。

視覚化

教材や課題・手順などを視覚的に提示しましょう。

授業のユニバーサルデザイン化

すべての子どもが活躍できる授業の追究

「主体的・対話的で深い学び」の視点に基づき、すべての子どもが「分かった」「できた」を実感できる授業を目指しましょう。

- 活動に見通しをもたせたり、活動の焦点化を図ったりするとともに、交流場面の工夫やICT機器の利活用等の充実を図ることにより、すべての子どもが意欲的に追究し、学びを深め、達成感や充実感を味わうことができる授業の実現を目指しましょう。

能力の育成

「主体的な学び」を実現する子どものイメージ例

学習内容の意味や価値を自覚しながら粘り強く取り組み、
学習内容を振り返ってその成果を実感したり、
成長を自覚したりする子ども



学びに向かう力を
刺激する
様々な工夫

興味や関心を高める
見通しをもつ
自分と結び付ける
粘り強く取り組む
振り返って次につなげる

学んだ手ごたえ

「対話的な学び」を実現する子どものイメージ例

異なる多様な他者との対話を繰り返し、
自らの考えを構築しながら、
他者とともに納得解や最適解を創り上げる子ども



「深い学び」を実現する子どものイメージ例

切実な課題を解決するプロセスを通して、
試行錯誤しながら他者とともに解決を図り、
身に付けた知識や技能を活用・発揮し、
学んだ手ごたえとして実感する子ども



参考：独立行政法人教職員支援機構次世代教育推進センター

生徒指導の機能

自己指導能力の育成

授業において、生徒指導の機能を生かし、自己指導能力の育成を図る取組を行いましょ。

- 一人ひとりの子どものよさや興味・関心を生かした指導や、互いの考えを交流したり、学び方について自ら選択したりする場を工夫するなど、授業において子ども一人ひとりが活躍する場をつくりましょ。

教師が一人ひとりの
学びを受け止め認める

自己存在感

自己指導能力の育成

自己決定

自分の考えを根拠と
ともに主張できる力を
身に付けさせる

共感的な人間関係

一人ひとりの学びを
つなげ協働により
課題解決をさせる

II 授業を支える取組の充実

学校現場を取り巻く環境が多様化・複雑化し、生徒指導や特別支援教育などにおいて組織的な対応を必要とする事案や、心理・福祉などの専門性の高い機関等との連携を必要とする事案が増加する傾向にあります。

そのため、校長のリーダーシップのもと、教職員がそれぞれの力を発揮しつつ、学校ぐるみで教育活動に取り組む体制を整備するとともに、学校外の様々な分野の人材を活用するなど、授業（教師）を支える取組を充実させましょう。

1 望ましい学習習慣・生活習慣等の定着に向けた取組

地域・保護者と連携・協働し、子どもの学習習慣・生活習慣等を定着させる取組を充実させましょう。

望ましい学習習慣・生活習慣等の定着

- 授業を通じ、子どもに学習の成果を実感させたり、成長を自覚させたりすることで、学習や運動等への興味や関心を喚起し、主体的に学習や運動に取り組む態度を育成しましょう。
- 主体的に家庭学習に取り組む習慣や望ましい生活習慣の定着にむけ、積極的に家庭や地域と連携し、共通理解を図りながら学校ぐるみで取組を推進しましょう。

<定着させたい習慣>

- ・主体的に家庭学習に取り組むなど、望ましい学習習慣の定着
- ・適切な食生活や睡眠時間の確保など、望ましい生活習慣の定着
- ・テレビやゲーム、通信機器等に触れる時間を決めるなど、家庭での約束の徹底
- ・楽しみながら運動する機会の設定など、望ましい運動習慣の定着

2 体力向上に向けた取組

運動の楽しさや体力の高まりを実感させながら、体力の向上を図る取組を進めましょう。

「わかる」「できる」「楽しい」体力向上の取組

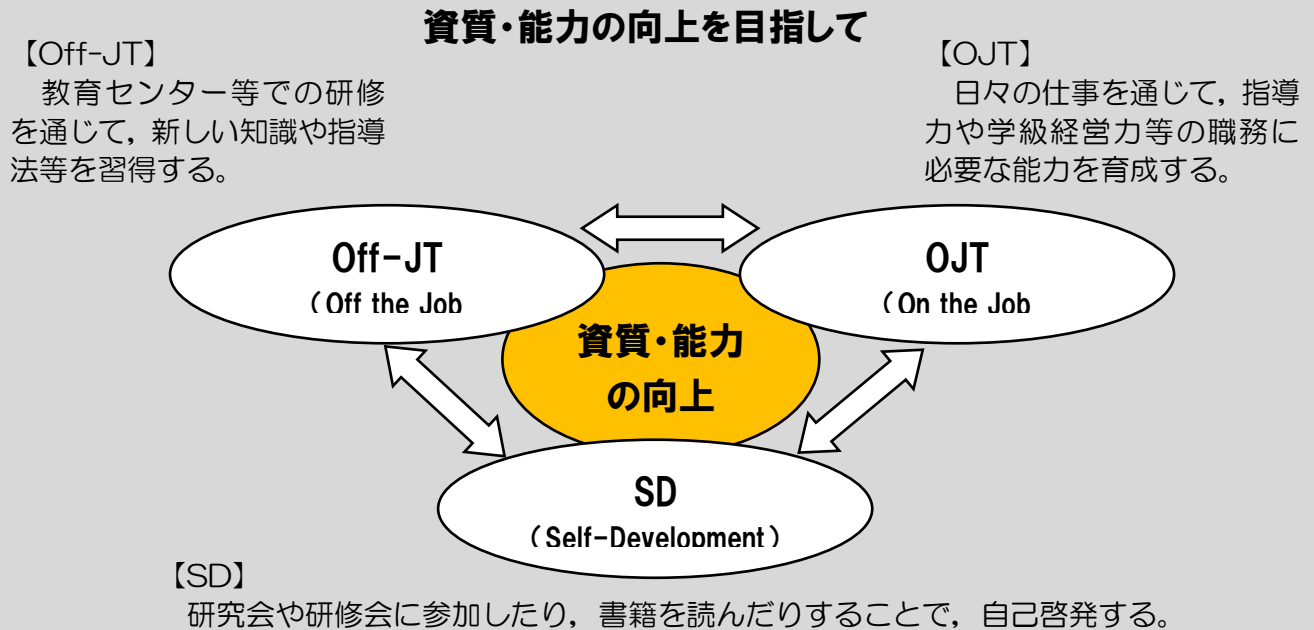
- 各種の運動・スポーツで得られる楽しさや喜び、解決すべき課題、解決方法に応じた行い方を理解させ、基本的な動きや技能を身に付ける体育の授業を行いましょう。
- 発達段階に応じて高める体力を重点化し、自己の体力や体の状態に応じた高め方を理解させ、楽しさや体力の高まりを実感できる体力向上の取組を行いましょう。

3 教職員の資質・能力の向上

教職員一人ひとりに新たな教育課題に対応できる資質・能力を育むため、研修体制の工夫・改善を図り、組織的・計画的に研修を推進しましょう。

(1) 教職員研修体制の充実

- 「教員は学校で育つ」との考えの下、同僚の教職員とともに支え合いながらOJTやメンター方式等の校内研修を通じて、日常的に学び合う研修体制の充実や、教員が学び続けるモチベーションの維持・向上を図りましょう。



(2) 教職員研修の推進

- 教職員の職務やキャリアステージ等に応じた校外での研修のほか、学校の実態やニーズに対応する市教委「訪問研修」や「ミニ研修」を活用するなど、教職員一人ひとりの資質・能力を高めるために学校内外の研修の機会を効果的・効率的に活用しましょう。
- ブロック（近隣校）や中学校区などを活用した取組の一層の充実を図るとともに、研究に関する情報交換や授業交流を行ったり、より実践的な研修を積み重ねたりするなど、小・中学校9年間を通した子どもの資質・能力の育成を図る研修を進めましょう。

校内研修の工夫（例）

- ・ 模擬授業の実施
- ・ 授業の映像を活用した研修
- ・ 合同研修（小規模校間や校種間の連携等）
- ・ 子どもの学びの姿に着目した協議

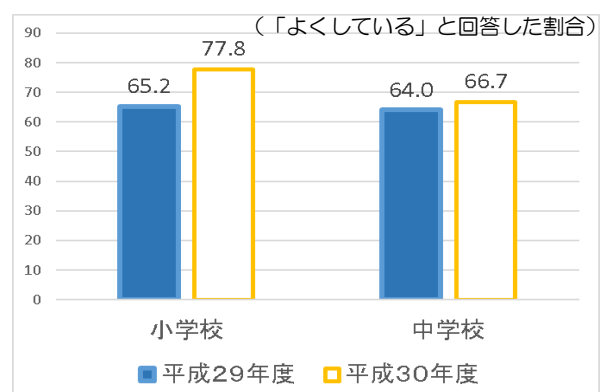
校内研修体制の充実に向けて、函館市北海道教育センターが行う「訪問研修」を積極的にご活用ください。

【H30実施状況】

道徳教育 3件 生徒指導 3件
授業づくり 2件 外国語教育 1件
特別支援教育 4件



模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っていますか。



平成29・30年度 全国学力・学習状況調査「学校質問紙」より

4 支持的風土が醸成された学級

一人ひとりの個性や考え方の違いをお互いに認め合う学級の雰囲気大切にしましょう。

- 一人ひとりが活躍する場や機会を意図的に設定し、子どもがお互いに認め合い、達成感や充実感が得られるような指導を行きましょう。
- 教育上特別な配慮を要する子どもは、失敗経験から自信を失っている場合があることを意識し、適切な行動ができている時には、積極的に称賛する指導を心掛けましょう。



子どもにとって “魅力のある学級” を目指して


5 多様なニーズに対応した、組織的・計画的な支援

- 子どもが示す不適切な行動や困り感などに対する指導方法を全教職員で研修し、適切な支援を行うことができるよう努めましょう。
- 校内支援委員会において「はこだて子どもサポートシート」等を活用しながら協議を行い、子どもの実態や保護者の願いに応じた組織的・計画的な支援を行きましょう。

—通常の学級において「はこだて子どもサポートシート」を作成する際の留意点—
各学校の実態に応じて様式を変更するなど、工夫して活用します。作成が難しいと感じる場合は
①実態 ②目指す姿 ③支援の手立ての3つの視点に絞って作成することも一つの方法です。

はこだて子どもサポートシート（通常の学級）記入例

学校での様子					
【生活】○ 机の中やロッカーの整理整頓ができない。 ○ 身の回りの物の管理ができず、すぐに無くしたり忘れてしまう。					
【学習】○ 机上の整理ができず、学習の取り掛かりに時間がかかる。					
短期目標（9月まで）	指導内容・場面	指導・支援方法	評価（子どもの様子）		
生活	・決められた場所に物を一人で置けるにする。	・学校生活全般	・机の中や棚に置く物を決め手本の写真を見ながら同じように置けるようにする。	H30アプローチにも示した通り、各学校で特別支援教育の推進計画を作成し、PDCAサイクルに基づいて定期的に更新していくことが大切です。	
学	全般	・必要な道具のみを机上に出すようにする。	・各教科の授業		・授業毎に必要な道具を明示するとともに、手本の写真を見ながら道具を準備できるようにする。
習	工	・机上を整理できるようにする。	・創作活動など		・授業中に定期的に整頓タイムを設け習慣付けを図る。 ・難しい場合は一時的に入れておく箱を用意する。



子どもたちが、よりよい学級づくりに主体的に参画しようとする心や態度を育みましょう。

- 学校の教育活動全体を通じて道徳教育に取り組み，子ども一人ひとりに思いやりの心や正義感など豊かな心を育みましょう。
- すべての子どもが学年・学級に所属感を感じ，安心して学習・生活することができるよう，集団に支えられて個が育ち，個の成長が集団を高める相互作用を生かした指導を行いましょう。

～どの子どもにも居場所のある学級を～

6 子どもを支える組織的・機動的な体制

- 日頃のきめ細かな観察を基本に，子どもの小さな変化をつぶさに捉え，情報交換や連携を密にするとともに，個々の教職員の強みを生かした役割分担を行い，組織的に対応する体制を構築しましょう。
- 相談週間やアンケートの実施，日常的なふれあいなどによる相談しやすい雰囲気全校でつくとともに，子どもや保護者からの相談に対して思いを十分に受け止め，必要に応じて，スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー，関係機関などと連携を図るなど，組織的な相談体制を構築しましょう。

いじめ・不登校への組織的対応

いじめの積極的な認知について

いじめは全ての子どもに関係する問題であり，どの子どもにも生じ得るということを十分に認識することが重要です。

いじめの認知件数が多いことは，教職員の目が行き届いていることのあかしであるとの考えの下，いじめを正確に認知し，適切に対応していくことが大切です。そのためにも，担任ひとりで抱え込むことなく，周囲への報告・連絡・相談を心がけ，「学校いじめ対策組織」を中心として解決に向かう必要があります。

不登校への配慮

不登校については，学校・家庭・地域が，子どもに寄り添い，個々の状況に応じた必要な支援を行うことが重要です。

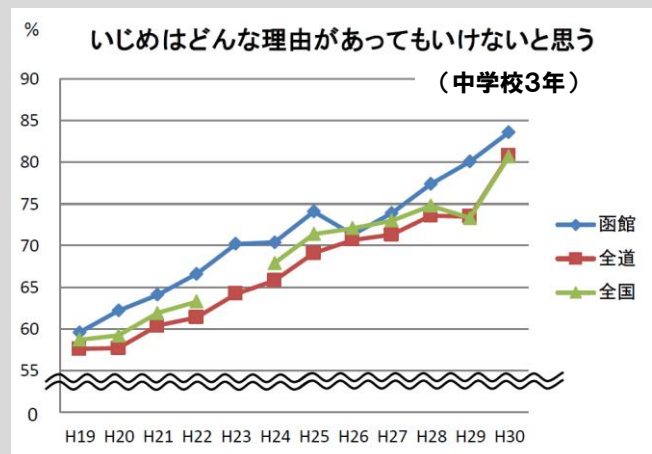
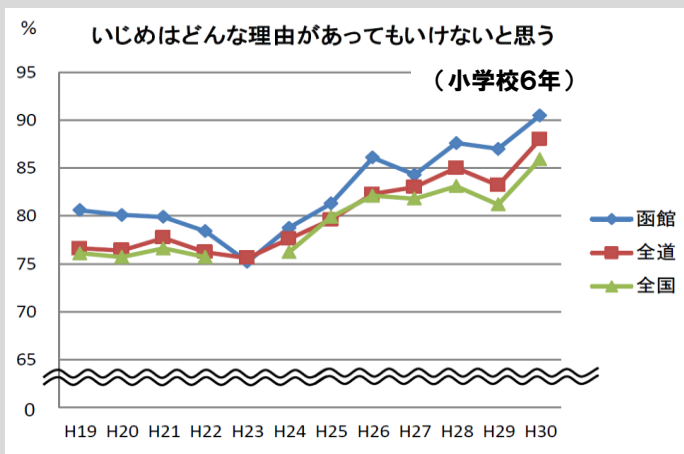
学級担任のみならず，学年団の教員や養護教諭のほか，スクールカウンセラー，スクールソーシャルワーカーなどの専門スタッフ等と連携・分担し，学校全体で対応するとともに，場合によっては，関係機関，フリースクールなどの民間施設等と連携・情報共有を図るなど，組織的・計画的な支援を継続的に行う必要があります。

7 豊かな心を育む取組の充実

「特別の教科 道徳」を要として、学校ぐるみで道徳教育を推進し、道徳性を育む取組を充実させましょう。

道徳教育の充実

- 各学校における道徳教育の重点や推進すべき方向性について共通理解するとともに、道徳教育推進教師を中心とした協力体制を整備し、学校ぐるみで道徳教育の充実を図りましょう。
- 道徳の授業において、子どもの考えを深め、判断し、表現する力などを育むために、教師が教材の構造やそこに含まれる道徳的価値を深く理解するとともに、発達の段階や実態を踏まえ、ねらいに迫ることができるよう発問や学習内容を工夫しましょう。
- いじめの未然防止のために、教育活動全体を通して生命を大切にする心や互いを認め合い、協力し、助け合うことのできる信頼感や友情などを育むとともに、主体的によりよい人間関係やいじめのない学級を築こうとする態度を育みましょう。



全国学力・学習状況調査「児童生徒質問紙」より

8 子どもの安全を守る取組の充実

家庭や地域などと連携し、子どもの安全を守る取組を充実させましょう。

家庭・地域と連携した安全教育の取組

- 避難訓練や引き渡し訓練に、地域の方や保護者の参加を呼びかけ、地域・保護者と連携した動きを確認し、地域の方々等との助け合いの意識を育むとともに、自らの安全を確保する具体的な行動を身に付けさせましょう。
- 学級活動の時間などにおいて、地域の方や保護者からの意見を反映した通学路の安全マップを活用し、子どもに「なぜ、危険なのか」「どのような危険が潜んでいるのか」を考えさせるなど、防犯意識・安全意識を高めましょう。

Ⅲ 地域とともにある学校づくり

子どもが健やかに成長していくためには、学校だけではなく家庭や地域が教育の場としての機能を発揮し、家庭・地域・学校が一体となって教育活動に取り組むことが重要です。

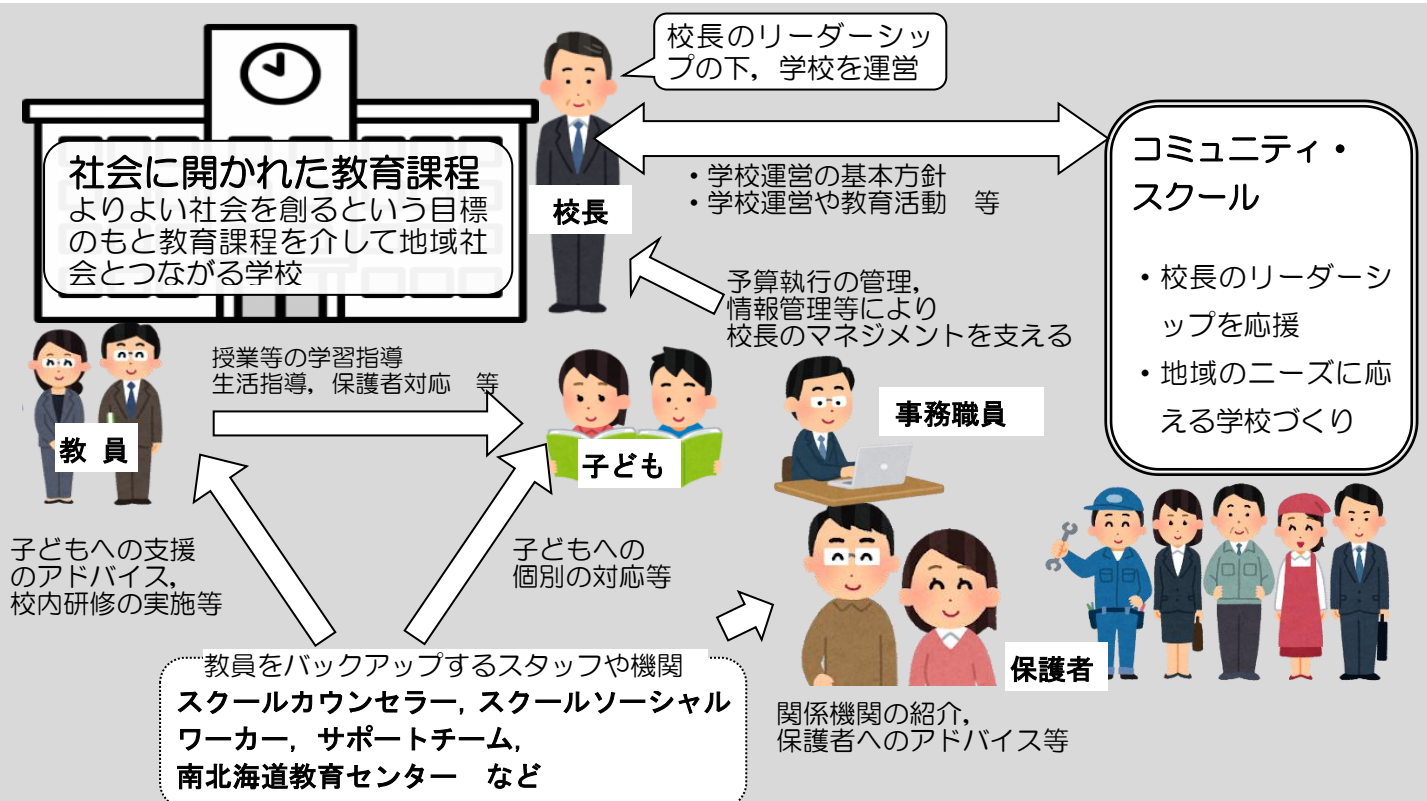
家庭・地域・学校が目標や課題を共有し、一体となって子どもを育む、地域とともにある学校づくりを進めるため、それぞれの役割を明確にし、分担しながら、連携・協働する体制を構築しましょう。

1 家庭・地域と一体となった学校運営

(1) 社会に開かれた教育課程

「よりよい学校教育を通じて、よりよい社会を創る」という目標を学校と社会が共有し、両者の連携・協働により、その実現を図っていきましょう。

- 教育課程の編成に当たっては、全教職員の協力の下、育成を目指す資質・能力を踏まえ、学校の教育目標の実現に向けて編成するとともに、編成についての基本的な方針を家庭や地域とも共有しましょう。
- 教育課程に基づき、組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図る「カリキュラム・マネジメント」に努め、学校教育の充実・改善を図りましょう。
- 教育課程の実施に当たっては、コミュニティ・スクールの仕組みを生かし、保護者や地域住民などに対して、学校運営への参画を促すとともに、目標を共有し、地域と連動した教育を実現させましょう。



(2) カリキュラム・マネジメント

学校教育に関わる様々な取組を，教育課程を中心に据えながら組織的かつ計画的に実施し，教育活動の質の向上を図っていきましょう。

- 教育課程の編成，実施，評価および改善に関する課題がどこにあるのかを明確にして教職員間で共有し改善を行うことにより教育活動の質の向上を図りましょう。

カリキュラム・マネジメントの充実を図るための取組

① 子どもや学校，地域の実態を把握する

- 各種調査結果やデータ等に基づく子どもの姿や学校および地域の現状の把握，保護者や地域の方の意向等を適切に把握します。

② カリキュラム・マネジメントの3つの側面を通して，教育課程に基づき組織的かつ計画的に学校の教育活動の質の向上を図る

教科等横断的な視点で，学校の教育目標の実現に向けた教育の内容を組み立てます。

教育課程の実施状況を評価し，その改善を図るPDCAサイクルを推進していきます。

コミュニティ・スクールの仕組みを生かし，地域の人的又は物的な資源等を効果的に活用します。

参考：「学習指導要領解説 総則編」

(3) 学校間の連携・接続

義務教育9年間を通して，子どもに必要な資質・能力を育むことを目指した取組を推進しましょう。

- 目指す子どもの姿の共有し，各学校の教育目標を捉えなおしましょう。
- 育成を目指す資質・能力に基づく教育課程編成の基本方針などを学校間で共有し，改善を図りましょう。
- 小・中学校教職員の連携を通して，教育内容や指導方法などの情報交換を進め，系統性のある指導計画を作成しましょう。
- コミュニティ・スクールの仕組みを生かし，学校運営協議会などの各種会議の合同開催などを通じて，地域の小・中学校が連携した取組を充実させましょう。